

# 中村商工会議所 創立50周年記念式典 式典

平成17年10月7日(金) 17時より

会場： 四万十市 新ロイヤルホテル四万十 2階 四万十



## 司会（杉本）:

みなさん、こんばんは。本日はお忙しい中ご来場いただきまして誠にありがとうございます。大変長らくお待たせいたしました。ただいまより中村商工会議所の創立50周年記念式典を開催させていただきます。私は本日の進行役を務めさせていただきます、中村商工会議所の青年部会長の杉本一博と申します。

## 司会（寺田）:

同じく、青年部の寺田悦子と申します。

## 司会（杉本・寺田）:

どうぞよろしく願いいたします。

## 司会（杉本）:

開催にあたりまして、中村商工会議所会頭 佐田末喜よりご挨拶を申し上げます。

## 佐田会頭:

只今ご紹介をいただきました中村商工会議所の佐田でございます。本日は、月初めの大変何かとご多忙な中にもかかわらず、日本商工会議所の土橋総務部長さん、そして高知県議会議員の田頭、土森両県議さん、この後少し遅れてご参加をいただくことになっております、中村市長さんの中村五十六市長さんをはじめとします多数のご来賓の皆さんのご参加をいただきまして、また、高知県下の商工会議所の会頭さんや役員の皆さん、各種団体の皆さんにも多数のご参加も賜りまして、誠にありがとうございました。心から御礼を申し上げる次第でございます。

皆さんもご承知のように、中村商工会議所はこの近くの新中村市の小姓町に産声を上げまして、激動の昭和の時代と共に本年で50年を迎えることになったわけがあります。この50年を振り返ってみますと、まず、初代の会頭さんが故東川圭介さんでありまして、昭和30年にスタートしたわけがあります。そのときに、旧中村市

の人口が 48,000 人であったわけでありまして。そして、商工会の会員さんが 979 社でスタートしたわけでありまして、その後、二代のこの方もお亡くなりになっておりますが、清水亨一さんの時代、昭和の 50 年、このときに旧中村市の人口というのは少し減少いたしまして、35,541 人、商工会の会員が 677 人、677 社ということに減少をいたしておるわけでありまして。その後、三代の会頭として、今日体調が悪くて奥さんにご参加をいただいておりますが、井上忠義会頭さんに三代を受けていただいております。その後が、四代目が今日ご参加する予定でありましたが、まだお見えになっていませんが、佐田文雄会頭さんであります。その五代が私の前の会長さんで、今日おいでいただいております、藤近馨会頭さんであったわけでありまして。

そうした 5 人の会頭さんの長年の厳しい時代を乗り越えて来られまして、今この 4 月に西土佐村と中村市が合併しちょうど人口が昭和 30 年の人口と全く同じ 38,000 ということになっておるわけでありまして。西土佐村が 3,500 人というものを足して 38,000、商工会の会員については 1,100 社、677 から三代の会頭さんによって人口は減少いたしましたが、会員数は徐々に増えてきていただいております。これも一重にこうした歴代の会頭さんの積み重ねのご尽力の賜物であろうと心から敬意と感謝を申し上げる次第でございます。



今、中村商工会議所が取り組んでおります「四万十川広域観光推進協議会」の中で、これは国土交通省の選定を平成 16 年の 10 月にこの団体で 40 団体が申請をしたのが「四万十川広

域観光推進協議会」と言わしていただいておりますが、75 の事業の中にも、今取り組んでおる「観光交流空間作りモデル事業」これは全国で平成 16 年に 16 の都道府県が選定をされまして、愛媛県の大洲と私達のこの四万十川広域観光推進協議会が選定をいただきました。四国では 2 件であります。そうした事業を進めながら、最近、ほんと数日前に「四万十かいどう推進協議会」が発足をいたしました。これも国土交通省の皆さんにも大変ご指導をいただきながら今進めておるわけでありまして、これは「幡多地域の国道、県道、市町村道に、

花いっぱい運動を起こそう」、「やはり幡多に行けばどこに行っても四季々々の花がいっぱいある素晴らしい地域である」、というように言われる、あるいは都会の方がそういうところへ求めて来ていただく、あるいは「四万十川」「足摺岬」「宿毛の夕日のだるま」、こういうような所にも、是非観光に来ていただきたいということによって、この幡多地域が観光流入人口を倍増にしよう、こういう計画は、今進めているところであります。これも、私たちだけでできる事業じゃありません。行政と皆さんと一体になって取り組むということによって、成果が表れてくるということになるわけでありまして、私たちもそういう事業を進めながら、この地域がいかに発展・反映につながるかということをしなければならないと思っておるわけでありまして。

ちょうどこの 50 年をひとつの節目として、そして四万十川というこの自然を活かしたそういうものに取り組みながら、この地域が活気ある明るいまちづくりを目指して、21 世紀に残していけるようなことを努めていかなきゃならないと思っておるわけでありまして。どうぞ、今日ご参加いただきました皆さんにも、ご支援とご指導とご協力を心からお願いするものであります。

そして今日は、そうした会頭の職を長年お勤めいただいて、ご功績を残していただいた 3 名の会頭さんにも、中村商工会議所として表彰をさせていただくことにしておりますし、また、長年にわたって商工会議所の活動や、あるいは地域の発展・反映のために商工会と一緒にあった議員、役員、会員の皆さんの 10 名程度の表彰をこのあとさせていただくことになっておるわけでありまして。どうぞ、その表彰をさせていただきました皆さんの今後、中村商工会議所、あるいはこの地域の反映発展につながることに、今まで以上のご支援ご協力を賜りますことをお願い申し上げたいと思います。そして今回、50 周年に何か記念になるものをもと思っておりましたが、皆さんもご承知のように中村商工会議所、なかなか財政基盤が厳しい状況でありまして、そういうものが思い切ったことができない、誠に残念であると同時に、皆さんに申し訳ないなと思っておるわけでありまして、長年経ったこの商工会議所のビルが、台風の度に雨漏りがしまして、バケツを幾つも据えてそれぞれの職員が勤務中に仕事をしなくてはならない。あるいはテナントで何社か

入っていただいている皆さんにも、雨漏りがするところでお仕事をさせていただくという、本当に申し訳ないことを何年か続いたわけでありまして、この際、補修事業に金をちょっと入れろということで祝宴の時にちょっと出てくると思いますが、補修事業を記念事業とさせていただきます。まあ、だいたい700万から800万かかりましたが、それと同時に、50年のあゆみの何か記念になるひとつのものを作ろう、ということでこれも準備をしてきましたが、今日に間に合わなかったわけでありまして、誠にこれも申し訳ないわけですが、12月頃できるとお思いますので、今日おいでいただいた皆さんには贈らせていただくようにしたいと思っております。それともうひとつ、今日東京から山内丈さんというご夫妻がおいでいただいておりますが、ちょうど前々から、当中村商工会議所の澤田勝行議員の方から、中村市に中村山内家のゆかりの鎧兜です、前に掲げておりますが、これを「中村、四万十市に寄贈したい」、こういって今日おいでいただいております、このあと澤田市長さんが、贈呈をお受けになるということになると思っております。本当にそうした山内丈さんには、わざわざこの四万十市までおいでいただいたうえに、立派な鎧兜をご寄贈賜る、ありがたい次第でございます。この席を借りしまして心から厚くお礼を申し上げるしだいでございます。どうぞ、今日これから懇親会が終わるまで、祝賀会が終わるまで、どうぞ皆さんと共にこの幡多地域、あるいは、今日は高知の方からもおいでいただいておりますが、高知県をどのようにしていくのか、あるいはこの幡多地域をどういう「まち」に発展させていくのかという

事につきまして、私たち商工会議所も一生懸命、皆さんと共に力を合わせて取り組んでいきたいという考えをもっておりますので、どうぞ今後共のご支援とご指導を賜ることを重ねてお願いを申し上げますとご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

#### 司会（杉本）:

佐田会頭ありがとうございました。続きまして、本日も臨席いただきましたご来賓の皆様をご紹介させていただきます。大変恐縮ではございますが、お名前をお呼びいたしましたらその場でご起立下さいますようお願いいたします。

#### 司会（寺田）:

日本商工会議所会頭	山口信夫様
本日は日本商工会議所総務部長	
土橋和則様にご臨席賜っております。	
高知県議会議員	田頭文吾様
高知県議会議員	土森正典様
国土交通省四国整備局中村河川国道事務所	所長 伊藤友喜様
国土交通省四国整備局中筋川総合開発工事	工事事務所 所長 五藤隆彦様
高知県中村土木事務所	所長 松田久義様
四万十市長	澤田五十六様
四万十市助役	中平正宏様
四万十市議会議長	渡辺稔様



#### 司会（杉本）:

それではここで本日ご臨席いただきましたご来賓の皆様方を代表していただき、ご祝辞を頂戴いたします。日本商工会議所会頭、山口信夫様よろしくおねがいします。本日は日本商工会議所総務部長、土橋和則様をお願いいたします。

#### 土橋:

ご紹介いただきました、日本商工会議所の総務部長で土橋と申します。本日は非常にいいお天気で、中村商工会議所 50 周年を迎えることができました。誠にありがとうございます。日商の山口会頭から皆様方へのお祝いのご祝辞を預かって参りましたので、私からお伝えを申し上げたいと思います。



中村商工会議所が創立 50 周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。中村商工会議所は、昭和 30 年の創立以来、常に地域経済社会のリーダーとして地域産業育成振興ならびに市民生活の向上のため、様々な事業に積極的に取り組まれ、中村市はもとより高知県の将来発展の為に大きな役割を果たして来られました。これも一重に、歴代の会頭をはじめ役員、議員、会員ならびに職員の皆様方の地域の発展に向けた強い熱意とご尽力の賜物と深く敬意を表する次第であります。

近年、わが国ではバブル後遺症を克服するため、多大なコストと時間を費やしてまいりました。一方で、経済のグローバル化と中国等の追い上げによる製造業の空洞化、リストラに伴う雇用不安、少子高齢化の進展と社会保障問題、まちづくりや地域コミュニティの再生問題など、幾多の重要な課題に直面しております。まさに、90 年に 1 度というべき大きな転換期にある今こそ、商工会議所はあらためてその使命と役割を担います。新しい時代にふさわしい希望に満ちた、安心のできる健康な日本へ、更なるに飛躍に向けて全力で取り組んでいただければ、と思います。中村商工会議所におかれましては、

この記念すべき創立 50 周年を、新たな出発点として佐田会頭を中心にさらに結束を深められ、心豊かで活力ある地域経済社会の実現に向けて、尚一層ご尽力賜わりますよう切望してやみません。

終わりに本日表彰の荣誉に浴されます各位に対し、心からお祝いを申し上げますと共に中村商工会議所の今後ますますのご発展と本日ご参会の皆様方のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

平成 17 年 10 月 7 日 日本商工会議所会頭 山口信夫。  
本日は、誠にありがとうございます。

#### 司会（杉本）:

土橋様、どうもありがとうございました。続きまして、四万十市長、澤田五十六様。よろしくお願ひいたします。

#### 澤田四万十市長:

皆さん、こんばんは。本日は日本商工会議所の創立 50 周年記念式典、誠にありがとうございます。商工会議所は、昭和 30 年の 7 月に創立されまして、以来半世紀にわたりまして、地域の皆さんと力を合わせて豊かで活力のある地域経済社会の実現にむけた事業活動を積極的に展開されてまいりました。その活動は商工業振興対策、また観光振興対策、あるいは、中心市街地活性化など多岐にわたっておりまして、地域経済界のリーダーとして今日の市政の発展や、また商工業の振興に尽くして来られました功績は計りしれないものがあると考えておる次第でございます。



また、本市が商業都市として確固たる地位や基盤を築いてくることができましたのも、中村商工会議所のご尽力の賜物でございます。歴代会頭、ならびに役職員の方々をはじめ関係各位に深く敬意を表すると共に、市政の発展の為に、今後とも尚一層のお力添えをお願いするものでございます。

市政も昨年 50 周年を迎えまして、この 4 月には四十市として新しく生まれ変わりました。中村、西土佐両地区の特色を最大限に活かし、これまで以上に英知を結集し、施策の推進を図って頂かねばならないと考えているところがございます。長年、商業サービスの拠点としての役割を果たしてまいりました。中心市街地でございますけれども、多くの都市に共通の減少でございます、中心市街地の空洞化という事や、また空き店舗の増加などがありまして、極めて厳しい状況にあることは他の市町村と同じでございます。このような現象に歯止めをかける為に「中心市街地活性化基本計画」の見直しを行いまして、中村商工会議所の皆さんにもご協力をいただきながら、「栄町の祇園風町並み整備」あるいは「天神橋区のくつろげる道の整備」などを進めてきておるところでございます、この両商店街の整備が完成いたしますと、すでに完成しております「東下町のくつろげる道」や、また「水と緑の市街地整備」との連続性、あるいは面的な広がりなどもつくり出されて、中心市街地の魅力



がひとつになっていくものと思っております。

また、商工会議所が中心となり取り組みを進めておられます、「観光交流空間モデル事業」は観光振興を核として国内外からの交流人口を増やしていこうという壮大な取り組みで観光振興はもとより、地域経済の活性化にも大いに寄与する事業であると期待をしているところでございます。中村商工会議所がこのような積極的な取り組みを今まで以上に推進していただきまして地域経済の活性化に向けリーダーシップを執っていただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたけれども、中村商工会議所の一層のご繁栄と、ここにお集まりの皆さんのご健勝を心からご祈念申し上げます、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

**司会（杉本）:**

澤田市長様、ありがとうございました。続きまして、功労者表彰を執り行わせていただきます。お名前をお呼びいたしますので、どうぞご上壇をお願いします。

**司会（寺田）:**

中村商工会議所 顧問 井上 忠義 様  
本日は奥様にご臨席賜わっています。

**佐田会頭:**

表彰状、井上忠義殿。あなたは、中村商工会議所会頭を始めとして、多年にわたり中村商工会議所の活動発展におおいに尽力されました。よって中村商工会議所創立 50 周年にあたり記念品を添えて表彰します。

平成 17 年 10 月 7 日 中村商工会議所 会頭 佐田末喜

**司会（寺田）:**

中村商工会議所 顧問 藤近 馨 様

**佐田会頭:**

表彰状、藤近馨殿。あなたは、中村商工会議所会頭を始めとして、多年にわたり中村商工会議所の活動発展におおいに尽力されました。よって中村商工会議所創立 50 周年にあたり記念品を添えて表彰します。

平成 17 年 10 月 7 日 中村商工会議所 会頭 佐田末喜

**司会（寺田）:** 井上 博之 様

**佐田会頭:**

表彰状、井上博之殿。あなたは多年にわたり中村商工会議所の活動に貢献し、商工業の発展向上に尽力されました。よって中村商工会議所創立 50 周年にあたり記念品を添えて表彰します。

平成 17 年 10 月 7 日 中村商工会議所 会頭 佐田 末喜

**司会（寺田）:** 沖 香 様

**佐田会頭:**

表彰状、沖香殿。以下同文でございますので、省略させていただきます。おめでとうございます。

**司会（寺田）:** 柿谷 友造 様

**佐田会頭:**

表彰状、柿谷友造殿。以下同文でございますので、省略させていただきます。どうもおめでとうございます。

司会（杉本）： 国吉 謙太郎 様



佐田会頭：

表彰状、国吉謙太郎殿。以下同文でございますので、省略させていただきます。どうもありがとうございました。



司会（寺田）： 西原 功 様

佐田会頭：

表彰状、西原功殿。以下同文でございますので、省略させていただきます。どうもありがとうございました。

司会（寺田）： 澤田 勝行 様

佐田会頭：

表彰状、澤田勝行殿。以下同文でございますので、省略させていただきます。どうもありがとうございました。

司会（寺田）： 土森 正典 様

佐田会頭：

表彰状、土森正典殿。以下同文でございますので、省略させていただきます。おめでとうございます。

司会（寺田）： 遠近 一 様

佐田会頭：

表彰状、遠近一殿。以下同文でございますので、省略させていただきます。おめでとうございます。

司会（寺田）：

佐田文雄様、小谷貞弘様、浜田誠一様は本日所用のため欠席されましたので、表彰状、記念品は後日お届けさせていただきます。

司会（杉本）：

それではここで、表彰者を代表していただきまして、藤近馨様より謝辞を頂戴したいと存じます。藤近馨様、よろしく願います。尚、表彰者の皆様にはご起立のほど、お願いいたします。

藤近：

本日は、中村商工会議所創立 50 周年の記念に、記念すべき良き日に私たち会頭経験者 3 名、役員在職 25 年を勤めた 10 名が晴れの場で表彰いただき、心よりお礼申し上げます。私達がこの晴れがましい場に来られるのも先輩諸兄のご指導の賜物と感謝する次第でございます。

今後はお互い健康に十分注意し、伝統ある中村商工会議所の運営に対しそれぞれの立場で、微力ながら協力をしていく所存でございます。どうか、当会議所が創立半世紀の歴史を踏まえ、更なるご発展と会員ならびに職員諸兄の益々のご健勝を心よりご祈念申し上げ簡単ではございますがお礼の言葉とさせていただきます。

平成 17 年 10 月 7 日 表彰者代表 藤近 馨



司会（杉本）：

藤近様ありがとうございました。どうぞご着席ください。それではここで、土佐、山内家伝来の鎧兜の贈呈式を執り行なわせていただきます。山内丈様、澤田市長様、

ご上壇をお願いいたします。山内様は、平成 15 年の土佐一條公家行列に参加していただき、それをご縁にこの度、中村商工会議所が仲介の場を執らさせていただきます、本日贈呈式への運びとなりましたこと、ここでご報告させていただきます。

それでは、山内丈様より澤田市長様、山内家鎧兜一式を贈呈していただきます。よろしくお願いいたします。

山内：

本日は 50 周年、誠におめでとう存じます。そちらに飾っていただきましたとおり、ここに目録がございますので、一応一読させていただきます。

### 目 録

- 一、 鉄錆地六二間筋兜
- 一、 錆色漆塗切付小札紺系威二枚胴具足  
右の品、貴市に寄贈いたします。

平成 17 年 10 月 7 日 山内 丈  
四万十市長 澤田 五十六 様



司会（杉本）：

引き続き、感謝状の贈呈を執り行わせていただきます。澤田市長様より、山内丈様へ感謝状を贈呈いたします。

澤田四万十市長：

感 謝 状

山内丈様。この度、今市に対し、格別のご奉仕により土佐山内家ゆかりの鎧兜をご寄贈いただきましたことは、誠に感謝に耐えないところです。よってここに、深く感謝の意を表します。

平成 17 年 10 月 7 日 四万十市長 澤田 五十六

尚、感謝の品といたしまして、中村市の名誉市民、四万十市の名誉市民であります、山崎大砲先生が書かれました、司馬遼太郎の「竜馬が行く」の中の一節を書いたものでございますけれども、これを納めていただきますようにお礼として差し上げたいと思います。



司会（杉本）：

山内様、澤田市長様、ありがとうございました。それでは澤田市長よりひと言どうぞ。

澤田四万十市長：

山内丈さんは、昨日お話を伺ったところでございますけれども、山内家には 3 つのルーツがあるようでございまして、丹波の山内、これがどうも山内一豊の系統に繋がったようでございますが、その系統と、それから奥州の山内、それから岡山の山内と、この 3 つの系統があるようでございます。こちらの兜は、奥州の山内家に代々伝わっていたものを山内丈さんが受けられて、そしてご縁がありまして、商工会議所の澤田勝行さんが、ず

っと間を取り持っていただきまして、この度贈呈というふうな運びとになったわけでございます。ご覧のように立派な鎧兜でございます。四万十市は震災とかあるいは台風などによりまして、いろんなものが失われてしまったわけですけれども、こういった有形な物が、この度贈られてですね、歴史を感じさせるひとつの大きな役割を果たしてくれることかなと、非常に期待をしているところでございます。山内丈さんは、旧中村と縁を感じられてましてわざわざこの四万十市に対してこの品物を贈ってくださるということでございます。

尚、この件につきましては、10月29日に樋口眞吉の講演会と合わせまして文化団体への披露がございました後、公民館で2・3ヶ月一般公開させていただきます。そしてその後、四万十資料館、山の上でございますけれども、そこで展示されることになっておりますので、ごゆっくりとまた楽しんでいただければと思います。本当にありがとうございました。

司会（杉本）：

澤田市長様、詳しいご説明ありがとうございました。以上をもちまして、中村商工会議所創立50周年記念式典を閉会させていただきます。どうも皆様ありがとうございました。

引き続きまして6時より祝宴となります。隣の会場の方へご移動のほうよろしく願いいたします。ありがとうございました。

